

○議長（堀内春美さん）

続いて通告2番、5番 小林和良君の一般質問を行います。

5番 小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。今回大きな項目として、内水対策について取り上げました。内側の内と水と書いて内水という言葉です。これは、大きな河川の堤防によって守られているエリアに集まってくる水が内水。例えば、富士川町で言えば、釜無川や富士川の堤防より西側です。それに対して外水、外側の水と書いて外水ですが、堤防より外側、釜無川や富士川を流れている水を外水と言います。内水対策とは、堤防より低い土地を流れる側溝や排水路と、小規模な川の氾濫を防止する対策です。言い方を変えると、市街地に降った雨を停滞なく、氾濫させることなく外側の大きな河川まで流す対策の1つです。

今回は、内水対策にとって重要な2つの要素、雨水排水路と排水機場に分けてそれぞれ質問させていただきます。取り上げました理由は、最近の自然災害において、気候変動におけるゲリラ豪雨、線状降水帯が多く発生し、日本でも、また世界でも大きな水害が発生している現状からです。内水対策は、このようないつどこで発生してもおかしくない水害から町を守る重要な対策と考え、取り上げさせていただきました。

それでは（1）の質問に入ります。市街地に降った雨を停滞、氾濫させることなく下流へ流す重要な役目を、雨水排水路は担っています。しかし、この排水路も年月とともに劣化しますので、その対応が必要になります。それと2つの環境変化に対応する必要があります。1つは、自然環境の変化。具体的には、気候変動による雨量増加への対応。もう1つは、田んぼや畑が宅地や道路などに転用される土地利用状況の変化への対応です。それでは（1）の老朽化、劣化、能力不足等による雨水排水路の修復、増設箇所の整備計画について伺います。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町課長（望月利樹君）

ただいまの小林議員のご質問にお答えいたします。町では、平成12年度に公共下水道事業計画の中で雨水対策を策定し、これまで小林地区、青柳町地区及び大柵地区の雨水排水路の整備を進めており、老朽化した排水路の改修等を行い浸水被害に対する対策を行って参りました。

また、昨年度には、天神中條地区等を整備区域に含めた計画の見直しを行って参りました。

こうしたことから、今後は、この計画に基づき、雨水排水路の整備を進めて参りたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

今ご説明いただいた整備計画ですけれども、これは老朽化、排水能力アップまたは住宅環境の変化対応、どの項目への対応がメインでしょうか、お伺いします。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。この整備計画の中では、排水能力のアップを目標としておりますが。排水能力を上げるためには、老朽化した、また狭い水路などの改修が必要であるため、老朽化対策と排水能力アップを同時に進めていく計画となっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。この、色々兼ねているというご説明ですので、理解いたしました。再質問ですが、施工する場合、雨量についてはどれぐらいの雨量を想定して設計・施工されているのでしょうか。お願いします。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。この本計画が想定している計画降雨量は、1時間当たり43ミリとなっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。再質問ですけれども、2019年に台風19号が山梨にも来て、相当な被害が出ました。このときの最大日降水量、1日にどれくらい降ったかというのは、252ミリです。場合によっては、違う月の月単位の数倍の雨量だったということです。ただこのときは、1時間当たりの降水量は35ミリでした。1時間当たりとしてはいけるということになりますけれども、1日降り続いた場合には、やはり色々な弊害が出てきます。そこで、2019年の台風19号のときに、雨水が排水できずに、噴出した箇所は既に把握されてい

ると思いますが。今回の計画によってそれは改善可能なのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。台風時などの大雨が降ったときの水路の状況につきましては、その時々でパトロールを行い状況確認しております。しかしながら、町内全ての水路を把握することは、非常に困難であります。ただいまのご質問の台風19号時にも、私どもが確認している状況では、天神中条地区の水路が、金手小林線に接続されている部分、合流するような部分、新興住宅地の部分で、水路のオーバーフロー2箇所したことは確認しております。なお、この部分につきましては、昨年度計画範囲の見直しを行いました。計画の部分に含まれておりますので、雨水対策として順次改修を行なって参りたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。台風19号のような規模でも排水できるということですので、安心いたしました。それで、この計画ですが、予算的にはどれぐらい見込んでいるのでしょうか。補助金もあると思うのですが、その内訳についてご説明願います。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。事業費につきましては、国庫補助金の割当てや町の財政状況などにもよりますが、現在のところ年間1000万円程度の事業費を見込んでおります。なおこの事業にかかります国庫補助金の補助率は約50%を見込んでおります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。この年間1000万でも、何年も掛けてやるということだと理解しました。あと、雨水排水路の整備計画は、恐らくすぐにはできない。何年も掛かると思います。この場合、希望する町民に、あらかじめ土のうを配付するようなことは可能なのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

町では台風などの水害に備えまして、常時土のうをストックしてございます。この土のうにつきましては、水害対策などに使用するためであれば、必要とされる方へ提供することは可能ではありますが、いざ災害時にその方々の所に配付という部分につきましては、やはり人手が足りないということもあわせて考えておりません。ただし、先ほど申しましたとおり、持ちに来ていただければ、この土のうをその方々にお配りするということは可能と考えております以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。よろしくお願いします。それと雨水の件ですけれども、他県で、大雨が降ったときにマンホールが飛び出したり、あとはトイレが逆流して汚水が流れ出るということをよくニュースで見るとはありますが、富士川町においては、そのような雨水が増加することによって下水のほうの水が逆流して民家の中にそういうものが出るようなことはございますでしょうか。お伺いします。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。先ほどの質問の中でありましたニュースでよくマンホールから汚水が溢れるというような部分につきましては、恐らく、雨水が公共下水道に流れ込む合流式というふうな部分において、そういったことが起こることがあります。しかしながら、富士川町の公共下水道につきましては、汚水と雨水を分けて処理を行います分流式を採用しております。このため、雨水が公共下水道へ流れ込むようなことは可能性が低いと、汚水管のマンホールの飛び出しや、トイレなどへ汚水が逆流するようなことは構造上起こり得ないと考えております。

なお、雨水が流れる雨水管のマンホールにつきましても、公共下水道と同様に、マンホールの飛び出しが起らないよう、蓋を固定するロック式などを採用しておりますので、マンホールの飛び出し等は起らないと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。安心しました。それでは、(2)の質問に移りたいと思うの

ですが・・・

○議長（堀内春美さん）

小林議員、質問の途中ですがここで暫時休憩します。

休憩 午前10時 4分

---

再開 午前10時12分

○議長（堀内春美さん）

休憩を解いて再開します。

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

それでは、(2)の質問に入ります。(2)は、排水機場についてです。排水機場ですが、富士川町には4箇所排水機場があります。鯉沢の東川に1つ、青柳町に1つ、すぐ隣の新田に1つ、そして長澤に1つあります。外側から建屋はご覧になった方もいると思います。まず、排水機場の役割ですが、豪雨によって外側の大きな河川、富士川町で言えば釜無川や富士川の水位が、町内の小さな川の水位よりも高くなってしまった場合、大きな河川からの逆流を防ぎ、町内の川の水を排水ポンプで大きな河川に送り込み、浸水被害を防ぐ役割をする重要な施設です。その送り込む量は、それぞれの施設違いもありますが、大きなものでは1秒間に8㎡、重さだと8トンです。ドラム缶に換算すると1秒間にドラム缶40本分を送り込む、そういう量になります。私も、先月初めて排水機場の中を見学させていただきました。建屋の中には、巨大な船舶用のディーゼルエンジン、減速機、ポンプ、発電機、そしてクレーンも装備してありました。外側には流れてくるゴミを掻きとる除塵機、1万リットルを超える重油タンク、そして、川の接続を遮断する水門がありました。

3年前の台風19号のときは、富士川の水位は堤防まであと1.9mの高さまで上昇し、町内4箇所の排水機場はフル稼働して、内水氾濫を防いだとのこと。この重要な施設ですが、2箇所の施設、青柳町と長澤の施設は、設置されてから年月が経過しております。青柳町の排水機場は設置後49年が経過、長澤の排水機場は46年を経過しております。どのような設備も、時間経過とともに故障率はバスタブ曲線形状、いわゆる風呂の底の形状で故障率が変化するとされています。初期の段階で、これは初期不良とかそういうものです。それで安定してきて、偶発故障期、そこから最後の摩耗故障期に入ります。このカーブは、指数的に変化するといっているので、もう極端にグッと上がるようになります。要は、初期故障期を過ぎて、偶発故障期、そして故障率が急激に増加する増加する摩耗故障期です。青柳町と長澤の施設は、経過年数から既に摩耗

故障期に入っていると思われます。この状態で、万が一のときに動かなくなってしまうとは、大きな水害が発生し、大変なことになります。地域の方からも心配する声が聞こえています。これらの状況を踏まえた上で、排水機場の更新計画について伺います。よろしくお願ひします。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまの質問にお答ひします。町内の排水機場のうち、県有施設である東川排水機場につきましては、県において平成24年度に策定した長寿命化計画に基づき、令和3年度から各種設備機器などの更新を行っており、今後も順次、行っていく予定であります。

次に、町有施設であります青柳排水機場につきましては、これまで各種設備機器類などを順次、更新して参りましたが、供用開始から49年が経過していることから、隣接する国土交通省の新田救急排水機場との統合整備を視野に入れた全面改修案を策定し、国に事業実施を要望しているところであります。

また、同じく町有施設であります長沢排水機場につきましても、青柳排水機場と同様に各種設備機器類などの更新を行ってまいりましたが、供用開始から47年が経過していることから、全面改修案を策定し、長沢川の管理者である山梨県に、事業実施を要望しているところであります。

なお、新田救急排水機場につきましては、国土交通省において、定期的に保守点検を実施し、設備機器類のオーバーホールを行うなど、適切な維持管理が行われているところであります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

実は、この件は2年前にも一般質問で青柳議員より、この問題は提起されております。そのときのご回答で、今後国、県に対して強く働きかけていきます。そして、1日も早く安心、安全な地域にしていきたいというご回答でした。それから2年が経過しました。町長も代わっていることから、現在の国、県への要望活動などの進捗状況をお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

小林議員のご質問にお答ひいたします。私も青柳、長沢排水機場につきましては、富士川町内の内水対策として、最も重要な施設だというふうな認識をしております。町長就任以来からの更新の必要性、町長就任以前からも必要性と

いうのは、認識したところでございます。

私が町長に就任してから、事あるごとに国、県に要望活動を行なっております。私の記憶、メモの中で既にもう14回要望活動をしているところでございます。具体的には、本年3月、6月、8月に国土交通省甲府河川国道事務所長に対して行いました。4月には、農林水産省関東農政局山梨拠点地方参事官に対して要望を行いました。5月には、国土交通省本省へ赴きまして、富士川町の内水対策の現状を説明するとともに、排水機場の更新について要望活動を行いました。また、県に対しても同様に、要望活動は事あるごとに行っているところでございます。しかしながら、この要望に対しての具体的な回答は、今のところいただいております。今後も引き続き、要望活動をしていきたいと思っております。

議員ご指摘のとおり、もう50年選手の機械なのです。本当に命を守っていく、町民の安心安全を守っていくためには、更新というのはしっかりと捉えて進めていかなければいけない喫緊の課題かなと感じているところでございます、以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

ありがとうございました。元々町の施設になっているけれども、とても町だけでは無理だということで、国と県に色々な要因からお願いされているということで、なかなか今のところは際立った進捗はないというふうに受け取りました。引き続きよろしく願いいたします。それと、一体県および町は、この排水機の装置の耐用年数はどのくらいと考えているのか、お伺いします。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。設備機器の種類にもよりますが、この排水機場におきます主要な設備であるポンプ施設の標準耐用年数は、約30年と言われております。しかし、青柳排水機場および長澤排水機場におきましては、既に供用から30年以上を経過しておりますけれども、今まで適切なメンテナンスにより、維持管理を行うことをやって参りました。今後もこの維持管理を適切に行いまして、施設の長寿命化を図って参りたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

耐用年数が30年ということになりますと、場合によっては、20年以上その耐用年数を超えて使っているという状態だと思います。メンテナンスを色々されているようなので、できるだけ次の更新がつながるまでいければというふう感じだと思えるのですけれど、よろしくお願ひします。あと、今色々整備をしながら、長寿命化を図っているということでしたが、青柳の排水機場が49年、長澤は47年経過しているのですけれども、そのディーゼルエンジンとか減速機とか、ポンプ、発電機、使用機器のメンテナンス部品の支給についても支障はございませんか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。この機械にありますパッキンなどの汎用品につきましてはの部品供給につきましては、問題ないと考えております。しかしながら、排水機場の機器につきましましては、ほぼ特注品になっておることから、このほかの部品などは機器に適用するもの、また新たに製造し交換するような形になると考えております。また、部品交換での対応が不可能な場合は、パッケージごとの交換となり、その場合も受注生産となりますが、対応は可能だと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

大きなエンジンとか、減速機とかポンプが万が一壊れた場合は、次の部品が入るまで、相当ストップするという認識をいたしました。

それでは、質問を変えます。長澤の排水機場は、施設の周辺の工事の経緯があつて、私も見学させていただいたのですが、河川だけ下がつて、水の取り口は河川よりも1メートルくらい上がっているわけです。ということは、ポンプを空回りさせるわけにはいかないので、水がいよいよ溢れ出る直前になって、恐らくポンプを動かす。そして今度はあまり水が減つて、エアーを吸い込むといけないのでポンプを止めると、これ非常に頻繁にオン・オフをしなければいけないと思うのです。この場合、今の更新計画の中に、この改善、要は、本当は川と同じ位置に排水ポンプの取り口はないと大変なことになると思うので、更新時に、この辺の改善を盛り込む計画なのではないでしょうか。お伺ひいたします。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。長澤排水機場につきましては、ご質

間とおり、水の取り入れ口が高くなっている状況であります。このため、長澤川の水位が、かなり高くなると排水機場によりまして、水が排水できないという構造になってしまっております。先ほど申しました、全面改修案につきましては、この長澤排水機場につきましては、この流入水量の全て改善といいますか、改修する計画になっておりますので、この改修になれば、そういったちょっと不自然な排水機場ではなく、ちゃんとした排水ができる排水機場になると考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

これも更新時には、改善計画に盛り込むということで安心しました。それと、そもそも青柳と長澤の排水機場は、40数年前に農水省の湛水防除事業で設置されたもので、いわば田んぼとその周りを守るための湛水場です。今は、40数年経って、周辺環境が大分変わっています。住宅地がどんどん、どんどん増えています。現在でも、この湛水防除事業で計算された排水能力で大丈夫なのでしょうか。また、更新時に当然これも見直す必要はありませんか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。この長澤、青柳排水機場の能力につきましては、国土交通省が平成22年に調査を行いました、長澤川の内水対策シミュレーションにおきまして、昭和57年8月に発生した台風災害と同程度の降雨量においても、家屋浸水が起きない程度の能力を有していると判断されております。

なお、そのときの市川大門の観測所によりまして、総雨量が363ミリ、時間当たり最大雨量が25ミリということでしたが、この規模の降雨があっても、住宅地に浸水はないというふうに現在のところ考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

今お答えの363ミリは、最大日降水量だと思います。あとは、1時間当たりの値ですけれども、現在、恐らく当てはまらないのではないかなと思います。先ほど質問した点からいっても、最大1時間当たりの降水量は、実は35ミリだったのです。台風19号ですけれども。ですから、この数値はちょっとプアじゃないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。ただいま私が申しました、総雨量また1時間当たりの最大降雨量につきましては、国交省がそれを基準として造ったものでありますので、実際のところ、その規模が降っても大丈夫という判断です。台風19号における総雨量も、実際、現実問題としてそのときに家屋の浸水被害等はございませんでしたので、十分今の能力で対応できると考えております。

また、先ほどの質問にちょっとお答えを忘れてしまったのですが、新たに更新計画になっています計画では、現在の能力よりもアップした能力の計画になっておりますので、安全に少しマージンを取った計画となっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。今から、過去のデータは参考にならない程度の雨量とか台風、線状降水帯というのが起きる可能性はあると思いますので、その辺はマージンをとってよろしくお願ひしたいと思います。

それと、もし長澤と青柳の排水機場の施設を更新となると、どれくらいの費用が掛かると試算されているでしょうか、お伺ひします。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。現在、町が試算した費用といたしましては、平成30年度に青柳排水機場、令和元年度に長澤排水機場の更新計画、また、概算事業費を試算しております。そのときの概算事業費といたしましては、青柳排水機場が約39億円。長澤排水機場が約21億円となっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

あと庁舎が2つばかり建つような金額ですね。とても町だけでは無理なことは想像できます。その費用の算出根拠を教えてくださいませんか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。青柳排水機場につきましては、平成30年度に業務委託いたしました新田救急排水機場との統合整備を見込んだ全面改修案で算出された概算事業費となっております。また、長澤排水機場につきましては、令和元年度に業務委託を行いました全面改修案、これは先ほどの質問でもございましたけれども、建屋、流入口全てを全面改修するという案でございますけれども、その改修案において算出された概算費用となっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

こうなると、コストが最大のネックというふうに考えます。それで、先ほど更新の計画の中のシステムは、恐らく現在のシステムと同様な特注品の、大型船ポンプエンジンも使用したシステムと思われまます。このコストでは、なかなか先に進めないと思います。恐らく県とか国に要望しても、そんなに明日にというわけにはいかないと思います。そこで、解決策の1つとして、今国交省が進めているマスプロダクツ型方式というのがあるのです。どういうことかという、実はどの町も県も更新時期を迎えております。同じように費用が掛かるのでできないということで、国交省が腰を上げてマスプロダクツ型方式を、実施実験をやっています。どういうことかという、コストは何と従来型の10分の1、一桁下げるということで、今実験を開始していると。今までの排水機場の機器はエンジンにせよポンプにせよ、その全てが先ほどおっしゃられたように特注品で、したがってコストが非常に高い。また、故障時の復旧に時間がかかる。これを量産品、汎用品を使用してコストダウンとメンテナンス性、ランニングコスト低減を狙い、排水施設の建設、更新の促進を狙ったものということで、ちょうどピッタリ合うのではないかと考えており、見せていただいたエンジンはヤンマー社製のものでしたが、今回のマスプロダクツでは、トヨタ、三菱の量産型の車のディーゼルエンジンで、もう何百万と出ているので、あと信頼性もあるのでそれを使用する。あと構造もシンプルに変更して、河川ポンプの更新時代への対応ということなのです。ですから、このまま高額な費用で進んでも、なかなか打開策が見つからないと私は思いますので、このマスプロダクツ型を、更新計画に盛り込んで、想定コストを下げた更新時期を早めるお考えはありますでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えします。現在策定している更新計画の中では、先

ほだのご質問にあったとおり、現状の排水機場の形、また、エンジン等を想定した総事業費となっております。議員さんが先ほど申しました、マスプロダクツ型河川排水ポンプというものにつきましては、現在国交省が実証実験を行っている最中と承知しております。これは全国6市町で今行われているというふうなことでございますけれども、かなりのコストダウンが図られるというふうなことでございます。しかしながら、現在、マスプロダクツ型河川排水ポンプ施設につきましては、現場実証実験中ということで、耐久性やどのような形で導入できるのかというものは、まだ示されておりません。富士川町といたしましては、これらの現場実証の結果を注視しながら、富士川町で導入可能かどうかということも含めて検討として参りたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

ぜひとも、少し選択肢を広げて、打開策を見つけるというのも必要かと思えます。39億円や21何億円では、なかなか県、国もお金の面で、今ちょっとコロナもあり、状況が厳しいこともあってなかなか進まない。しかし、故障率は、指数的に上がっていくこととなりますので、選択肢を広げて進めていただけるようにお願いします。

あと、ちょっと更新がすぐにはできないということですが、温暖化に伴い、今後排水機場の稼働回数は増えてくると思います。雨量が増えます。また、非常時には、同時に町の担当の3箇所の対応が必要であって、運転が長時間に渡れば、交代要員も含めそれなりの人数が求められます。現状の人員体制や訓練はどのようになっているのか教えてください。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。現在、各排水機場には、職員6名ずつを配備する体制を採っております。この6名で、現状に応じまして排水機場の運用、作業を行なっていくわけですが、6名おりますので、交替しながら休息を取ることは可能であるというふうに考えております。また、訓練状況につきましては、出水期前にこの6名の配備員に対しまして、この排水機場の機械の操作方法の説明や訓練などを実施しているところであります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

最後の質問になります。やはり、更新までの期間に、排水機場のポンプが壊れる、機能しなくなった場合の対応なのですけれど、恐らく国交省が保有する大型の排水ポンプ車の出動を依頼して、排水作業を継続して浸水被害を最小に食い止めるしか方法はないと思います。いつ壊れるかわからない。この場合、排水ポンプ車をどの位置に何台配備して、排水作業を行うのか、また、万が一に備えた緊急対応マニュアル等の詳細な準備、それに対応した訓練状況はいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

土木整備課長 河原恵一君。

○土木整備課長（河原恵一君）

ただいまのご質問にお答えいたします。緊急時に排水機場の排水ポンプに不具合が起きて、水の排水ができないような状態になった場合、現在町では、国土交通省甲府河川国道事務所に大型の排水ポンプ、これは車両搭載型になるわけですけれども、4台ございます。この4台の車両につきましては、市町村の要請によりまして、このポンプ車を派遣していただけるということがございます。町といたしましては、救急時には国にお願いして、このポンプ車の派遣を要請したいというふう考えております。ただし、この排水ポンプ車を想定いたしましたマニュアルやシミュレーションに関しましては、現在まだ作成しておりませんので、これは国交省と連携しながら行って参りたいと考えております。また、国交省の中には、市町村職員に対しまして、このポンプ車の操作訓練等をできるというふうにお伺いしておりますので、機会を見ながらこういった訓練も行って参りたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。更新を進めると同時に、いつ壊れるかわからないポンプ、万が一に備えて準備をお願いしたいと思います。以上で私の質問終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で通告2番 5番 小林和良君の一般質問を終わります。

---